

## 第2章

### これからの外国語教育

## 1 外国語教育と「生きる力」

学習指導要領には、全教科共通の目標として「生きる力」の育成が掲げられています。各教科の特性を活かして「生きる力」を育むことが求められているわけですが、外国語教育においては、「外国語によるコミュニケーション」を通し、次の3点を目指すことになります。

### ① 言語や文化に対する理解を深める

外国語に触れることで、その言語及び背景にある文化を理解するだけでなく、日本語や日本の文化に対する理解も深まります。

同時に、「異(い)なるもの」に接することで言語や文化に対する感性が磨かれたり、国際感覚や国際協調の精神が育ったりすることも期待できるでしょう。

なお、小学校においては、これを「体験的に理解する」とこととされています。

### ② コミュニケーションへの積極的な態度を育成する

分からないことがあっても粘り強く聞きたり、疑問があれば相手に質問したり、自分の意見をはっきり伝えようとしたりする姿勢が、異なる文化や価値観を持つ人たちと協調して生きていこうとする態度へと発展していくことが期待できます。

この項目に関しては、「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る」という共通の文言が、小中高すべての学習指導要領で用いられています。

### ③ コミュニケーション能力を養う

ここで言う「コミュニケーション能力」とは、場面や状況、背景、相手の反応等を踏まえた上で、正確かつ効果的に情報をやり取りできる力を指します。

小学校でコミュニケーション能力の素地を育み、中学校で基礎を養い、高等学校で運用能力を高める、という流れになっています。

これに伴い、小学校では平成23年度より5、6年生において、年間35時間の外国語活動が実施され、中学校では平成24年度から英語の授業が全学年で週4時間となり、高等学校では平成25年度に4技能の総合的育成を目指した全く新しい科目構成に変更されます。

次ページに、学習指導要領に示された小・中・高それぞれの科目と目標をまとめて掲載しておきますので、参照してください。

【学習指導要領に示された目標一覧】

小学校

第4章 外国語活動 第1 目標

外国語を通じて、ア言語や文化について体験的に理解を深め、イ積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、ウコミュニケーション能力の素地を養う。



中学校

第2章 第9節 外国語 第1 目標

外国語を通じて、ア言語や文化に対する理解を深め、イ積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのウコミュニケーション能力の基礎を養う。

第9節 外国語 第2 各言語の目標及び内容等 英語 1 目標

- (1) 初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できるようにする。
- (2) 初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようにする。
- (3) 英語を読むことに慣れ親しみ、初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解できるようにする。
- (4) 英語で書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができるようにする。



高等学校

第8節 外国語 第1款 目標

外国語を通じて、ア言語や文化に対する理解を深め、イ積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするウコミュニケーション能力を養う。

「第8節 外国語 第2款 各科目」に示された各科目の目標

<p><b>コミュニケーション英語基礎</b> 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどの基礎的な能力を養う。</p>	<p><b>コミュニケーション英語Ⅰ</b> 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。</p>	<p><b>コミュニケーション英語Ⅱ</b> 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。</p>	<p><b>コミュニケーション英語Ⅲ</b> 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を更に伸ばし、社会生活において活用できるようにする。</p>
---	---	--	---

**英語表現Ⅰ**

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。

**英語表現Ⅱ**

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。

**英語会話**

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、身近な話題について会話する能力を養う。

**その他の外国語に関する科目**

その他の外国語に関する科目については、第1から第7まで及び第3款に示す英語に関する各科目の目標及び内容等に準じて行うものとする。

## 2 求められる校種間の連携

小学校から高等学校に至る外国語教育には、前述の、外国語を用いて「生きる力」を育てる、という目標に加え、授業をコミュニケーションの場と捉え、十分に言語活動を行う、という指導方針も貫かれています。

ここでは、外国語教育の目標を達成するために必要な要素を、小学校から高等学校に至るまで継続して育てるものと、段階的に発展させていくものに分けて示します。

### (1) 継続して育てるもの

#### ア コミュニケーションに対する積極的な態度

子どもの中に、人と関わることを魅力的だと感じる気持ちを育て、それを「相手への思いやり」へとつなげていきます。

#### イ 協調性・寛容性

外国語の音声・リズムに触れたり、異文化を体験したり、日本語や日本の文化への理解を深めたりする中で、「異(い)なるもの」に対する協調性や寛容性を培っていきます。

#### ウ 生涯学習に取り組む姿勢

「世界中の人とつながることができる」という外国語の可能性に気づき、外国語を学ぶことの楽しさを実感し、外国語の学び方を習得できるよう支援していきます。

### (2) 段階的に発展させるもの

#### ア 4技能の総合的運用能力

小学校段階の「音声によるコミュニケーション」が、文字による情報のやり取りを含めた「4技能の総合的な運用」を目指す中学校、より高度な内容を扱う高等学校へと引き継がれていきます。

#### イ 発信力

小学校では、主に自分のことを伝え合いますが、中学校からは、客観的事実や抽象的概念も表現しなくてはなりません。さらに高等学校では、「英語表現」という科目を設定し、論理の展開や表現の方法の工夫による発信力の向上を目指しています。

#### ウ 正確さ・適切さ

活動が「対面コミュニケーション」に限定されている小学校とは異なり、中学校以降は、あらゆる形態のコミュニケーションを扱います。これに伴い、手段として用いる外国語の「正確さ・適切さ」を、徐々に強く求めていきます。